満洲国岫巖県興亜国民優級学校に於ける学校経営史料（続）

高野仁

蔬菜園芸学研究　劉徳貴

苗床

苗床之意義

蔬菜之種子不直接播在本圃而先於陽光温暖之地作一土畦将種播於其上待苗長大之後再移植於本圃此土畦者謂之苗床

第一節　苗床之分類及利益

苗床之種類可分冷床温床二種冷床者以自然温度温床乃以人工補助温度蓋温床労力雖多而利益非浅将其利点列如左

一、幼苗對於寒暑病虫之抗力較弱能加特別保護周到

二、作物形質之良否不能全由種子判別発芽成苗後可以選別淘汰

三、幼苗期較長或前作物未能収穫此時可先播於苗床待地空間而後移植本圃亦是土地利用経済之道也

四、如トマト、甘藍等不能直接播種必先播於苗床

第二節　冷床之構造

冷床為一般農家應用之苗床其構造極為簡単先選択陽光温暢之地粉砕土垠舗上腐植質之堆肥再施以人糞尿覆以細土使成高三四寸寛一米長短適宜之土台再行播種然後於両側毎隔五寸距離竪以木柱南側高七八寸北側一尺四寸即可上繋木杆作棚架棚上遮以簾蓆、油紙、布帳等物以防降霜及調節日中之温度

第三節　温床之構造

在春季気候未暖之時不適播種〓早日育成幼苗則必加以人工補助温度為尚

温床之設置較冷床複雑許多但温床育苗速度較冷床能早日育成其設置於不受北風之地且向陽光先劃長三尺寛四尺掘深四尺之坑周囲用木板前高六寸後高一尺五寸両端成斜形之木框然後床中舗以稲草馬糞落葉米糠豆粕然後以清水及尿再覆以細土（細沙一、田土四、堆肥五）上蓋窖戸（玻璃・油紙均可）経五六日即可発熱（C氏二五度左右）然後播種

第一項　播種法

如〓之装置完畢後蓋上窖戸経発熱後即以寒暖計測験之其温度若在C氏二五度左右即可播種種々播時須按種子之大小而施行若大粒種子宜点播小粒者條播為宜

播種時用四分厚之木板圧浅溝将種子條播均匀如西瓜、胡瓜、南瓜等須将胚部向下発芽後能得優良之苗

第二項　管理法

温床之管理不同其他圃内作物之管理倘若一日不注意或遇寒或遇熱時則発出之幼芽受傷最易故将種子播於床内即時用稲草覆蓋窺其幼芽将要出土時将覆草除去毎日須時常巡視並持地下寒暖計以便測験床内之温度若温度遇高時即晒水或将窖幕張開使其温度発散遇低時将窖晩開幾小時使温度平均

毎朝10時前将窖張開午后四時閉上若遇天陰或降雨或天気遇寒時須将蓆簾覆蓋窖上以免床内受害

苗床図（略）

トマト及ビ茄子ノ管理要図（略）

優一勤級　蔬菜園芸学指導案　指導者姓名　劉徳貴

一・教材　蔬菜貯蔵法

二・目的　使知蔬菜之重要性乃吾人日常生活所供給之副食物吾人日常生活不但僅仰主食物蔬菜与主食物亦有重要関係存在故書

経所云「穀以養民菜以佐穀」由此可見蔬菜之重要但蔬菜之需用終年不断因蔬菜不能終年生産毎至冬季往々感覚蔬菜之不是故於豊収之際加以貯蔵以備将来需用

三・教材観

（一）本時系農業教材藉此以引起児童對農業之重要

（二）使知蔬菜為生活上副食物之可缺者也以興起児童對於園蔬加以特別研究

（三）使知終年不断以提起蔬菜貯蔵方法

（四）今当国家人口繁密応対園芸加以特別増産以使自給自足或貢献一般之需用

四・計画　①時間配当

第一時限　貯蔵蔬菜類講解

第二時限　貯蔵方法及貯蔵之注意

第三時限　按講述之経過加以実習

②連絡教材　果実貯蔵法

③準備　普通蔬菜類　掛図

五・指導過程

①引起動機……按児童日常所知之蔬菜貯蔵法教者以問答式而喚起之

②〓的指示……板書題目（蔬菜貯蔵法）

③方法講解

イ・窖蔵法　甲・選択位置……選択陽光温暖之処

乙・様式造成……按蔬菜之多寡而造成窖之様式

丙・窖内蔬菜之放置（以図示之）

丁・窖内管理之注意……即窖内之通風換気或菜之整理等事

ロ・加工法　蔬菜有時不能貯蔵此時乃施以加工法同時教者以実例解説

一例　大根之腌漬法

甲・先将大根洗浄於陽光晒之使成半圓形〓則可以塩漬之

乙・腌時将晒好之大根按大根一〇〇〓食塩三〇〓之比例数而腌之

二例　菜豆之乾燥法

将菜豆於陽光之下十分晒乾以備将来煮食之法也

前号の最後の「本校の労作教育」と本号に掲載した資料から、当時国民優級学校において農業科目が実際にどの様に教えられていたかを知ることが出来る。まず、金井の「本校の労作教育」では、第一学年で、園芸作物（蔬菜）と養豚を主に教授し、勤労愛好の念を養成し、第二学年に進むと、その他に学校林（栗・胡桃・松・楡など）管理、兎・鶏・山羊・綿羊の飼育と肥料及び農産加工の教授が加わり、経済的経営、帳簿・日誌の記載法等生徒自らが卒業後実際に農業経営に携わる際必要な知識・技能の教授を主としている。実習経営による実績は、大豆、高粱、包米などを中心に９８５・７３円の収入合計があり、そこから種子・肥料などの経費３１２・７７円や補助費等を差し引いた純利益は４２６・９６円であった。これは同年同校の経費予算、（前出）を見ると、人件費１２６５４・０円を賄うには遙かに及ばないが、辦公費（事務費）７８６・９円の半分強（５４・３％）に当たり、ある程度学校経営の足しになったと考えられる。この学校では、「初等学校トシテハ広大ナル実習地（約66畝約4.7ha）」を獲得し、実務教育に力を入れることで、生徒の勤労愛好の精神を培い、将来の生活に直結させると共に、実習によって獲得した利益を、学校の施設設備費に充てることで、「従来ノ依存的消費一方ノ学校経営ヨリ脱却シ、強力ナ生産力ヲ具有スル自立自営ノ独特的学校経営ヲ目標（学校経営要項）」としていた。

次に本号最初の劉徳貴の「蔬菜園芸（苗床）」では、直播きしないで苗床を作る意義、苗床には自然の温度の下で作る「冷床」と人工的に加温する「温床」の二種があって、「温床」が優れていることを紹介した後、図を使ってそれぞれの構造、土壌や肥料の種類、その播種法と管理法を詳しく教授

している。同じく「蔬菜園芸学指導案（蔬菜貯蔵法）」では、蔬菜が日常生活の副食として重要な食物であること、しかし冬季等それを得ることができないこと、よって豊作の際これを貯蔵して将来に備える必要性を本科目の目的としている。最初に生徒に日頃見聞きしている貯蔵法を問い、続いて穴蔵に貯蔵する窖蔵法と大根や豆類を加工して貯蔵する加工法の二つを教授している。この蔬菜園芸学の授業は、生徒にとってやや専門的すぎると思われるが彼らの年齢の高さや4割近くが極寒の満州における農家の出身であること（前出統計）、また非農家にとっても日常生活面で必要な知識であることを考えると、「国民生活安定上必要とする所の実学」を教授するという教育方針に合致した内容であったといえる。

三　学校日記・訓話記録

前号の「毎日の行事」の中にある「日誌提出」と朝会時の「訓話注意」及び学校経費の収支の一例（物品収支明細簿）を掲載した。

学校日記　岫巖県岫巖街公立実験大寧國民優級學校（推定昭和14年金井記す）

康徳6年9月4日					月曜日		天気	雨	風向東南	温度
學級學生	在籍数	欠席	欠課	遅到	早退	出席数	値日教師	楊紹震	印	
二年智級	44					44	教師			
二年仁級	40	1		3		39	勤務	皆勤		
二年勇級	52	3				49	朝礼	因雨朝礼停止		
一年礼級	49	6		2		43	訓話	（於各教室挙行）		
一年義級	49	5		1		44	偶発事項	ナシ		
一年信級	40	2	1	4		38				
合計	274	17	2	10		257	来校人及公文収発	発文（県公署教育股） 関於八月份各校月報表送付之件 （月報表二十份）		
備考										

訓話記録（推定昭和14年金井記す）

△説明　訓話分普通特別全體部分個人教室途中朝会週会紀念祝祭始業休業等結果記有無效

実行未明白否感動否改革否等

種別	事実	講話者印	月日時	結果
朝会訓話	一、厳禁遅刻与早退 一、集合時応敏捷而厳粛	章培周	十一月二十四日 午前九時	
朝会訓話	一、学之有道養之有素 一、站排時応迅速敏捷 一、街上行走応注意左側通行	于文林	十一月二十五日 午前九時	
朝会訓話	一、學生玩忽心不可有厳粛 姿勢要時々表現之藉以 顕露学校平素訓練精神	于文林	十一月二十六日 午前九時	
朝会訓話	一、教室特ニ机ノ中ヲ整頓スルヨウ注意 一、自分カラ進ンデ勉強スルヨウニナルベシ 一、鍛錬シテ体ヲ健康ニスベシ 一、防共協定二周年ノ祝賀	木村巖	十一月二十六日 午前九時	
朝会訓話	一、冬季気候厳寒朝会跑歩時口腔宜緊閉呼吸由鼻 腔出入応注意 一、本期学期試験＝＝応注意復習	于文林	十一月二十八日 午前九時	

朝会訓話			
一、学生応節儉不可浪費金銭	〃	十一月二十八日午前九時	
朝会訓話			
一、服装検査実行ニ際シ今ダ不徹定ナリ自己の体ハ自己デ守リ団体生活ニハ特ニ注意シナケレバイケヌ	木村巖	十一月二十八日午前九時	
朝会訓話			
一、不患無位患所以立 一、亡羊補牢未為晩也	于文林	十一月二十九日午前九時	

物品収支明細簿　模造紙　（推定昭和14年金井記す）

月日	摘要	受	拂	残
1/28	領自県公署	二五張		二五張
2/18	造表用		五張	二〇張
2/22	糊窗用		一五張	五張
3/1	〃		五張	平
	計	二五張	二五張	二五張
	合計	二五張	二五張	平
3/28	領自県公署	二〇張		二〇張
3/30	画表用		一〇張	一〇張
4/25	糊窗用		一〇張	平
	計	二〇張	二〇張	二〇張
	合計	二〇張	二〇張	平

周囲の農村の学校ではとかく怠りがちな日常の生活記録を、県の実験学校として率先して行っていたようだ。先ず「学校日誌」であるが、出欠席を厳格にとっている。当たり前な行為に思えるが、当時としては出欠席すら杜撰であった。次の「訓話記録」は、「日独防共協定」のような政治的な訓話は一件だけで、殆どは日常生活上の一般的な注意、例えば遅刻早退の禁止、迅速な行動、左側通行の注意、学習の励行、防寒対策などであった。

最後の「物品収支明細簿」は、模造紙に関することのみであるが、後出の史料にもあるように、金銭関係については厳格を旨とする指示が出ていることもあって、この様な些細なものも収支を明らかにしている。

史料中の日本人教師の訓話は日語で表記されている。なお、史料中に推定昭和14年となっているのは、金井が勤務する以前の学校のものだからであろう。

四　岫巌県全県学校長会議指示注意事項

全県の校長を集めた会議で、厳格な学校の管理運営を行うための指示・注意がなされ、また各学校長から希望事項が出されている。この史料によって当時の学校現場に於いて管理上何が課題であったかを知ることが出来る。

指示事項目録

一、　関於国本奠定詔書之件
二、　関於確認教育目標之件
三、　関於初等教師退職転職防止之件
四、　関於初等教育施設拡充計画之件
五、　関於国民科教授之件
六、　関於学校後援会（或保護者会父兄会）設置之件
七、　関於日本語成績調査之件
八、　関於実験初等学校活用之件

九、　関於中心学校活用之件
十、　関於学校林造成之件
十一、関於学校報告例或限期之公文須尅期報告之件
十二、関於実習地収入金之件
十三、関於校費徴収之件
十四、会計検察実施之件

指示事項

1・関於国本奠定詔書之件

皇帝陛下於去年七月十五日建立建国神廟而煥発国本奠定詔書当今之秋肩負建国聖業之重責之教育関係各位謹当奉戴聖旨体認国本之根源銘念政教之淵源日満関係再度緊密以図教育之振興進而於民生之繁栄民福之増進凡教育関係者当有以上之新決意為要

故当克服萬難自粛自戒協心戮力努力於国基之確立愈使建国本義発揚光大以奉体聖旨為望（附）捧読日期除五月二日捧読廻鑾訓民詔書外餘式典日均捧読国本奠定詔書注意

2・関於確認教育目標之件

處此現下国際情勢極端複雑困難之秋為整備吾国国家新体制計正向大東亜新秩序建設聖業達成途径上邁進當此之時教育亦応於此新体制之下順応行施自不待論換言之吾国教育目標可謂即在養成此国家新体制的人材

諸位須明白正確認識此点指導監督管下教員以達成教育之使命更加一層努力為要

3・関於初等教師退職転職防止之件

近来由種種原因初等教師退職転職者続出不絶対於初等教育上障碍殊多今後対於学年中途退職絶対採用不認可之方針而現職教師未経許可擅自転就他職甚或偽造履歴私自受験者不予採用自不待言然因其他原因不得不懲戒免職或亦有之以上種種厳加取締

希句発生此弊是荷

4・関於初等教育施設拡充計画之件

鑑於目前之國勢地方之民度及就学之状況而於其他施設拡充実為免不容緩之要図是以康徳七年度首由中央樹立初等教育施設十個年計画本県亦循此樹立県下初等教育施設十個年計画以為施設拡充之根幹以期初等教育之普及以故於本年度増加十六学級各校長亟応各自考慮地方情形切実施行調査計画以作康徳九年度拡充之準備

5・関於国民科教授之件

国民科者乃包含国民道徳、国語、国史、地理、自然等内容之国民常識科之謂也亦即為新学制初等教育学科目之一特色当本科教授時須考慮各科綜合之精神使保持各教材相互密接之聯繫関係対於一種事象務必収集各種教材而避免教授之抽象與分離以副合学生之具体生活為要

但視管下対於本科教授之実情未能副合本科特設之趣旨依然以旧態教授者甚多望各位対於管下教職員指導之使其徹底上叙之趣旨対於本科之教授加以研究與考慮為荷

6・関於学校後援会（或保護者会父兄会）設置之件

学校為地方社会教化建設之中心乃新学制之目標以学校為中心使地方一般教育熱之増高他方〓任教師為官吏俸給由県負担其結果易與地方街村民発生遊離為防止起見於学区内有力者或父兄保護者組織学校後援会以援助学校教育併希與教育地方実際生活有緊密之連絡

一、教師与地方能有密接連絡

二、能達到学校為社会教化之中心

三、国策宣伝等教師之力甚大以歧視之上開各会有必要性

7・関於日本語成績調査之件

本件依省署之計画国民優級学校第二学年日語実読実施調査以樹立改正之方策並取得諸施策実施之資料希各位対於本調査趣旨充分協力

8・関於実験初等学校活用之件

查実験初等学校務為我国初等教育之先駆或枢軸故〓〓務〓〓〓〓〓本県施行尚未十分徹底今後務希参照康徳五年二月十七日民生部訓令第四二号（民教国〓第二五号）及康徳六年　一月二十日民生部教育司函第二四号（民教国〓第五号）安〓民文三二三号県訓令一一〇四号行字第四二八号切実活用達成所負使命為要

9・関於中心学校活用之件

中心学校為教育区内各校之模範中心校長又為区内之視学委員各位応即遵照教育区認識規程徹底辦理与区内各校連絡円滑指導誘掖供其強化尤応供学校為社会教化之中心切毋如従前之沈悶為要

10・関於学校林造成之件

各校可利用実習時間造成学校林（記念林）以附全國緑化之旨至造林地可利用公有地或民有地（民有地須与地主商議妥協訂定契約売樹時分利）学校即可以此充実校費

11・関於学校報告例或限期之公文須尅報告之件

対於以上之報告例業由本署於康徳七年十一月令飭遵照辦理本案各校務須遵期辦理以免〓転遅延之弊

12・関於実習地収入金之件

各校経営之実習地応留収支帳簿（支出種子、肥料等費、収入、収穫之価格）其厠浄〓之利金可作学校経営費用切不可作私人之収入或補助伙食之用是為主要

13・関於校費征収之件

校費征収之規定業由本署於康徳五年六月二十日行字一〇一五号令飭事案嗣查各校有不経請准自便征収者其用途是否適当不〓而知甚或有因此〓生到飭者今後務須遵照〓令辦理為要

14・会計検察実施之件

查各校対於校費之征収以及実習地之収入為数不少其用途是否適当其収支有無帳簿可查均有考〓之必要以〓其他流弊本年度各校長均須留意此点本署視察期間随時実施検察決不敷衍仰各知〓

注意事項目録

一、関於本校分校経営之件
二、関於制服費徴収之件
三、関於制服布分配務期円滑之件
四、関於伙食費監督之件
五、関於学齢勧誘之件
六、関於限制事故假休之件
七、関於表冊帳簿整理之件

注意事項

一、関於本校分校経営之件

查学校統合後每校均在八級以上甚有多至十四五級者各分校有七八處之多距本校有遠至数十里者校長負有経営專責対於本校為常駐在之所自応就便熱心経営対各分校関於内容外観零修碎補亦須時時注意俾無遺憾除有特別事故須臨時各分校監察外每月須到各分校両次以上以認識分校学生姓名為度切勿以本校分校有遠近関係稍存歧視之意見為要

二、関於制服費徴収之件

鑑於七年度之学生制服費於領布数月前即盡数徴収因無妥善之保管或移用他項発生弊實及障碍甚多本年度対於此項款目無論本校分校須厳加限制時前不必収取可預告学生由家長準備県方通知領布時徴収即可並須按布之実價不得収有長額以免物議及各弊端

三、関於制服布分配務期円滑之件

学生制服布料既経配給自属経済節約之実施固応按照領収原尺碼切実配給各生徒不得零星節取配給他人更不得稍為出入従中漁力総之力求円滑合平経済節約之事実為要

四、関於伙食監督之件

査各校学生伙食一節清理無訛者固為多数而混同不整者亦在在皆是考其原因或由教職員把持不為公開或由学生自主不加検査以致浪費不節者有之黒暗不明者有之因而物議紛紛人言嘖嘖均属不合嗣後各校長対於伙食方面務須厳加監督不得稍事放任並期公私分明不得稍有偏倚当此生活改善経済節約之秋須明自粛自戒滅私奉公之義

五、関於学齢勧誘之件

国家興學意在普及山麓海隅窮郷僻壌莫不設校即此義也惟吾岫各校学額充足人満為患者固属不少而生徒寥寥裏足不就者亦不乏人当此開学之始校長及教師務須熱心誘掖多方奨勧多一入学生徒即増一健全国民既符教育普及之義又盡教育報国之誠

六、限制事故假休之件

誨人不倦教師之天職勤苦奉公官吏之本責現在之教師亦即官吏自応具有勤苦不倦之精神誘液訓導以陶鋳第二代国民俾急需任使之材早日完成方不負国家優厚待遇並養成無量公徳惟査各郷校教師或因個人之細故即行離校或離校数日亦不請假校長多不加監視或代為隠匿不報倶属非是嗣後各郷校長対於所属教師須厳為監督如係個人之瑣屑細故防止其欠席誤課儻有十二分不得已之重要事故須先由校長電話報告教育股認可後急呈届書以〓鄭重

七、関於表冊帳簿整理之件

査各校表冊帳簿応有盡有者固為不少而製備不全或僅具形式而不為填註或絲毫未有而膜不関心者亦在多数長此以往既無外表之観瞻何有内容之実際建国之教育決不容有忽於此者嗣後切為注意茲将本校応具備之表簿如左

関係法規　学校沿革誌　学校一覧表　学校経営案　学級経営案　視察簿　日誌　学則　毎週教授時間表
教授細目　教授日案　教科書一覧表　教師名簿　履歴書　出勤簿　学生学籍簿　出席簿　身体検査表
学生成績考査簿　会計帳簿　図書機械標本及模型目録　校具及其他備品清冊　卒業生名簿　卒業生台帳　学校及校地平面図　実習地平面　実習地管理台帳（収入支出）

以上各表簿外認為有必要之表簿

分校須具備左列各表簿

日誌　視察簿　毎週教授時間表　教授日案　学生学籍簿　出席簿　学級経営案　教師出勤簿　学業成績考査簿　校具備品簿　学校平面図　実習地平面図　実習地経営帳簿（収入支出）以上各表簿外認為有必要之表簿

希望事項　岫巌県岫巌街公立国民優級学校

関於夫役増給工資之件

街費之夫役月給一四円僅足個人衣食費之半額是故各校原有夫役多因生計不足自行辞退另行採用無応募者可否酌予増給工資以資維持

関於体育備品設置之件

查街村各校之体育備品之設施向多簡陋或欠如対於児童体育之向上殊感遺憾可否飭令街村充分設置

関於政府公報購閲之件

政府公報登載政府重要政令各校宜各購閲一份以遂国策之進行

中心校添置事務員之件

中心校事務異常繁忙由教師兼務難免顧此失彼可否添用事務員一人以専責成

関於校長会議質疑希望事項

1・関於自転車購買之件

限於中心学校一校一架費用由村負担以便利用

王家卜校長宮樹桐

2・関於校用石油請由県直接配給之件

因村中配給不円滑且時有欠乏無油之時擬請将村給学校石油予算費交県由県交渉支領転発各校

石佛崖校長羅〓普

3・関於等開教師会議之件
為精神協和起見毎年於寒暑假内招集全県教師開通常会議一次或二次
洪家卜校長董成芳

4・関於増設優級学校之件
擬於九年度洪家堡校増設優級一校以収容国民級卒業之失学者
洪家卜校長董成芳

5・関於公文由県註明編次以期整理之件
因公文甚多保管及翻閲多有不便擬請由県註明編次以便到校妥為整理
達道峪校長王時中

6・関於優級卒業生救済之件
優級卒業不得升學者甚多可否附課補習以資救済並利将来之学
達道峪校長王時中

7・関於新聞報紙訂閲之件
常閲報紙〓廣新聞報費由村負担
紅旗溝校長何世清

8・学生身体検査器添置或嘱託県公医毎村分期検査之件
紅旗溝校長何世清

9・関於学生伙食用品請求配給之件
擬由商工会発給通帳按時領取生活必需品較便
哨子河校長楊紹桐

10・関於校旗製定之件
由県規定様式以求全県画一以免紛歧
四道河校長劉善珍

11・関於ラヂオ購製之件
因可聴取日語講座及各地新聞之便
香炉村校長馬煌煒

12・関於教室門窓按装玻璃之件
遮蔽風雨採取陽光較紙糊者為佳
香炉村校長馬煌煒

13・関於購置風琴之件
教授唱歌必須風琴音節方能合度
凍土城校長王之敬

14・関於希望建築固定校舎以便整理而適応用之件
因現有優級及国民級共四級教職員及夫役五六名僅有民房十三間及耳房両間因宿室不足用又在遠地租五間亦不適用
小洋河子校長孔〓恵

15・関於学生教科書未到以前学生課業為何進行懇請指示之件
因国民三四年級学生旧書有廃用之説新書未到教授困難
小洋河子校長孔〓恵

聴取事項

1・新生入学状況

2．新増学級設状況
3．授業料是否按照規定征収
4．学生制服布配給状況
5．中心学校之活動状況
6．征収学生制服款清算状況　（以下校長会議出席者名簿計三七名省略）

県の視学委員として周辺農村部の学校を巡視して回った金井は、学校運営の杜撰さ、管理の甘さに驚き、「とかく流言・風聞のある金銭関係と学籍関係の二点」について厳格に行うよう気を配ったという。このことは史料の指示事項・注意事項に載せられている。例えば金銭関係では、指示事項の「十二、関於実習地収入金之件、十三、関於校費徴収之件、十四、会計検察実施之件」注意事項の「二、関於制服費徴収之件、三、関於制服布分配務期円滑之件、四、関於伙食費監督之件」がそれに当たる。また、学籍関係では、指示事項の「十一、関於学校報告例或限期之公文須尅期報告之件」、注意事項の「六、関於限制事故假休之件、七、関於表冊帳簿整理之件」がそれに当たる。

その外前号でも触れたが進学熱の高まりで、国民優級学校卒業生のみならず、国民学校卒業生の中にも多くの失学者（浪人）が生まれていて、各校長は優級学校の増設や補習科の設置を要望している。（校長会議質疑希望事項の4、6）

おわりに

金井が中国から持ち帰った国民優級学校の史料には、この外に「学校経営要綱」、「少年団野外訓練計画案」、「岫巖縣整備委員会公函」、「康徳九年度前学期主要行事表」、「康徳九年度校務分掌」、「岫巖街公立興亜国民優級學校職員親交会規約」などがある。枚数の関係で全てを掲載できなかったが、全史料の複写を佛教大学に寄贈し、製本していただき、金井三郎輯・髙野仁編『満洲国安東省岫巖県興亜国民優級学校教育資料』（二〇一六年十一月）と題して図書館に収蔵していただいた。この史料が、幸にも「満洲国の教育」研究の一助となれば、生涯その意義を探ろうと研究を続けた金井の労に些かでも報いることができると喜ぶ次第である。